

## 医学研究リテラシー

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 佐藤 洋一 教授		
担当講座・学科(分野)	医学教育学分野		
担当教員	佐藤 洋一 教授、花木 賢一 非常勤講師		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12.0 時間
期間	前期		

### ・学習方針（講義概要等）

研究力を育む医学研究リテラシーの一環である。初年次のゼミ、情報リテラシーおよびアカデミックリテラシーのコースで会得した知識と技能をもとに、研究に特化したリテラシーの基礎を授業する。授業では講義と学生どうしの討議とレポート作成をおこなう。学生は毎回のレポートを取りまとめてポートフォリオにすることを求められる。医学の研究をする意義が何か、研究をどのように進めるのが良いのか、結果を判断する時に必要な統計的手法にどのようなものがあるか等、を考察する。加えて、研究遂行で失ってはならない倫理感を植え付けるために、不正がおきる背景を述べる。医学の進歩には動物実験が欠かせないため、実験動物学についても概説する。

### ・教育成果（アウトカム）

科学研究を進めるにあたって必要な知識を修得し、応用をすることで、将来的に医療・医学の進歩に遅れることなく、最新かつ最善の知識と技能を不断に修得する自己研鑽の能力を身につけることができる。研究活動においてどのような不正行為が行われてきたかを知ることで、科学者としての倫理感を育むことができる。あわせて、科学研究が、人類福祉に貢献するためには、どのようなルールを守らなければならないか、常に自省する態度が身につく。グループで話し合う行為を通じて、討論力を培うことができる。レポートを取りまとめてポートフォリオとすることで、能動的行動の振り返りができるようになる。  
(ディプロマ・ポリシー：1, 6, 8)

### ・到達目標（SBO）

- 1 医学研究が、なぜ必要なのか述べることができる。
- 2 実際の模擬的実験をもとに、IMRDに準拠した論文を作成することができる。
- 3 実験ノートを模擬的につけることができる。

- 4 研究遂行に、最適な統計手法を選ぶことができる。
- 5 研究不正とは何かを列挙できる。
- 6 研究不正の背景を述べることができる。
- 7 実験動物の取り扱いで求められる事項を列挙できる。
- 8 動物実験における「Replacement（代替）」「Reduction（削減）」「Refinement（改善）」の3つについて具体例を挙げて説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 102 1-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/26	月	1	医学教育学分野	花木 賢一 非常勤講師	実験動物学1 「動物実験の倫理と法規」
6/26	月	2	医学教育学分野	花木 賢一 非常勤講師	実験動物学2 「実験動物の育種と特性」
6/27	火	1	医学教育学分野	花木 賢一 非常勤講師	実験動物学3 「実験動物の微生物統御、人獣共通感染症」
6/27	火	2	医学教育学分野	花木 賢一 非常勤講師	実験動物学4 「生物学的製剤の製造と動物試験」
7/3	月	1	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	医学研究の歴史
7/3	月	2	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	研究倫理と科学の不正
7/4	火	1	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	統計手法入門
7/4	火	2	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	実験入門

・ 教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	実験動物の技術と応用 入門編	(社)日本実験動物協会 編	アドスリー	2004
参	実験動物の技術と応用 応用編	(社)日本実験動物協会 編	アドスリー	2004
参	パブリッシュ・オア・ペリッシュ : 科学者の発表論	山崎茂明	みすず書房	2007
参	研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン	文部科学省 HP	文部科学省	2014
参	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針	文部科学省 HP	文部科学省	2014
参	医学論文を書く方のための究極サイト	www.ronbun.jp	J. パトリック・バロン	2015

・成績評価方法

定期試験で行われる統括試験（多肢選択と記述）で到達度を判定する。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。  
授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			